

キャリア教育



小学校高学年

中学校

高校

総合

プロジェクトX 挑戦者たち

43分

炎上 男たちは飛び込んだ ホテル ニュージャパン 伝説の消防士たち

(2001年放送)

この番組の良さ



伝説の消防士たち

1982年、東京・赤坂にある「ホテル・ニュージャパン」で火災が発生、死者33人、負傷者34人にのぼる大惨事となりました。この時、炎に包まれ、絶望的といわれる中から66人も命が救出されました。命がけの消火、救出の中心になったのは、東京消防庁・特別救助隊のメンバーです。この困難を極めた救出作戦は、消防の世界で今も語り継がれています。番組を通じて、伝説の消防士たちの救出劇や思いを知ることができます。

人として大事なこと

「一人の人間を救助することがいかに難しいか、ひとつの命は限りなく重い。」

インタビューでは、救出にあたった消防士たちの思いのこもった言葉がたくさん出てきます。このような言葉から、「いのち」の大切さや生き方について学ぶことができます。

番組活用のポイント

人助けのために自分の命を懸ける

人の命が尊いことと分かっていても、自分の命が危険にさらされるかもしれない状況で、本当に人助けができるかどうか。本番組では、消防士という職業にスポットを当て、絶望的な状況で人はどのように考え、そして実際にどのように行動したかということを通りながら、「いのち」や人として大事なことは何かということについて学ぶことができます。

現場の言葉から生き方を学ぶ

番組では、救出状況だけでなく、その時何を考え、どのように行動したかということが、消防士たちの言葉で語られていきます。

一人の人を助けるために、チームの命を懸けた時の隊長の言葉、「このままこの人を見殺しにしたら、あと何人助けても何百人を助けても、自分としては見て見ぬふりをしたという後悔が残る。」

そして、リーダーとしての思いや責任感が表れた言葉「自分が隊長になった時、本当に危険な時には、自分が入ると決めてました。」

このような言葉を子どもたちに投げかけ話し合う中で、「いのち」と責任、自分の生き方について考えを深めていくことができます。

職業、生き方について考える契機に

本番組の活用だけにとどまらず、勤労観を育むために、他のティーチャーズ・ライブラリーの番組を資料として活用すると効果的です。こだわりを捨てず、新たなことに挑戦し続け自分を高めている漫画家・井上雄彦氏のドキュメント『闘いの螺旋、いまだ終わらず』（P.42）、失敗を繰り返しながら何度でも挑戦していく開発者の姿を描いた『男たちの復活戦 デジタルカメラに賭ける』（P.40）などが活用できます。子どもたちの実態や興味・関心に応じ、これらの番組と関連させ、職業や生き方についての学習を行うことで、さらに効果が期待できます。

(山内雅博)